

第6回ねこまど女性将棋大会 三段免状獲得戦 観戦記

露峰航史郎

去る1月5日に「第6回ねこまど女性将棋大会 三段免状獲得戦」があった。この将棋大会は女性のみ参加できるという趣旨で、連休の最終日であるのにもかかわらず七名の参加者が集まった。新年ということもあり、街中はどこか弛緩した雰囲気であったものの、会場は駒とチェスクロック以外の音がしない厳かな雰囲気に包まれていた。

一回戦は黄さんと赤松さんの棋譜を取った。黄さんは得意戦法と語る三間飛車を、赤松さんは「最近指すようになった」という向かい飛車を採用した。

図は赤松さんが△4 五銀と出たところ。ここから黄さんは丁寧な指し回しでリードを奪う。



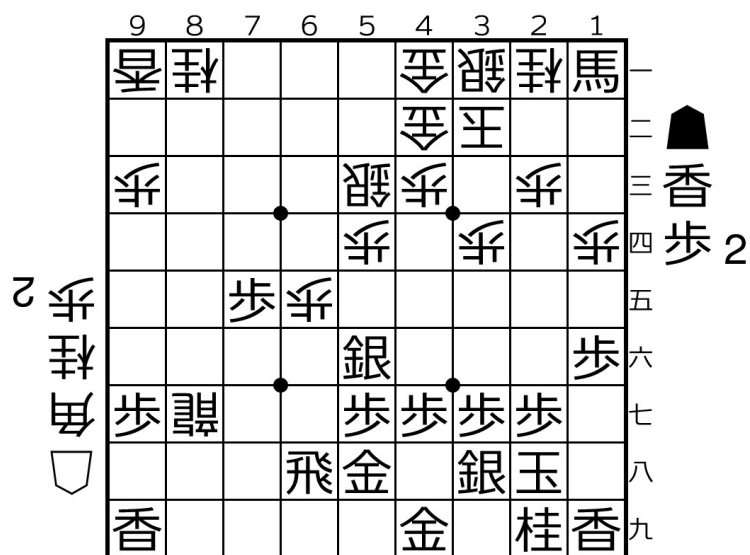
下図は本局のハイライトだ。渡辺さんが▲7 六飛車と歩を払い、後手が□7 五銀と受けたところ。ここで渡辺さんは▲7 八飛車とかかわしたが、柳原さんが□2 五竜～□6 五竜と急所の桂馬を外して負けない形になった。



決勝戦は森さんと竹中さんが全勝同士で激突。竹中さんは最新の箱入り娘を採用し、森さんはそれを 5 六銀型の三間飛車で対抗した。竹中さんの仕掛けが炸裂し、飛車の成りが約束されたところで下図を迎える。ここから森さんは振り飛車らしい軽快な勝負手を見せた。



▲6 四歩 △同歩 ▲6 五桂 △同歩 ▲7 七角 △8 七飛成 ▲1 一角成



▲6 四歩～▲6 五桂がこの形に頻出する手順だ。後手は香車を拾うためにも△8 九飛成としたいが、それには▲8 八飛車があって先手が捌ける。

竹中さんは▲6 四歩に対して△同歩を悔やんだ。感想戦では変えて△同銀が検討された。これなら▲6 五桂の勝負手が空振り、先手のはっきり苦しい。また、▲6 五桂に△4 四銀とかわす手もあったようだ。取れる桂馬を取らずに逃げるので感触は悪いが、意外と先手は後続が難しい。

この後も渋い応酬が続いて次の局面を迎える。先手の▲6 四銀打に後手が△5 二金引とかわしたところ。先手は飛車が隠居しているものの、後手の成り駒は団子になっているうえに後手玉は薄い。先手はうまく攻めを繋げたいところだ。



ここで森さんは▲5 六銀と引いたが、△6 八歩成が入って後手がはっきり優勢になった。▲5 三香も△4 二金寄ではっきり続かない。

戻って図では▲7 四銀と出るべきだったか。△8 八とや△6 八歩成りなら▲6 三銀左成りと勝負する手があった。以下、△同金なら▲同銀成～▲5 三香車と攻めれば、後手が振りほどくのは意外と難しい。この後は竹中さん得意の受けが光り、先手の攻めを切らしての快勝となった。

今回は紙面の都合のため棋譜を取った四局のみを取り上げたが、この他にも熱戦は多く繰り広げられていた。どの参加者も持ち時間のギリギリまで考えており、三段を目指す人の妥協のない姿勢が見えた。

観戦していて心地よく、思わず自分も将棋を指したくなる。そんな雰囲気の将棋大会であった。